

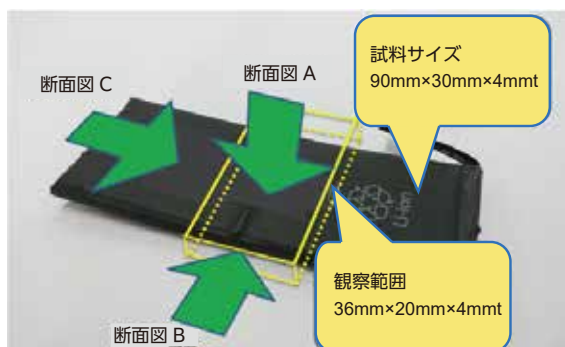
# 二次電池の内部観察 —X線CT法(大型試料仕様)—

大型試料仕様の測定では、ワーキングサイズ（測定装置に入れられる試料サイズ上限）：  
70mmφ×90mm観察エリアサイズ（3D測定できるエリアサイズ上限）：70mmφ×35mm程  
度まで観測でき、ピクセル分解能は5μm/voxel～144μm/voxelとなる。  
電子デバイスを非破壊で観察可能であり、電池積層構造、成形品のボイドなど成形不良の解析に  
有効である。

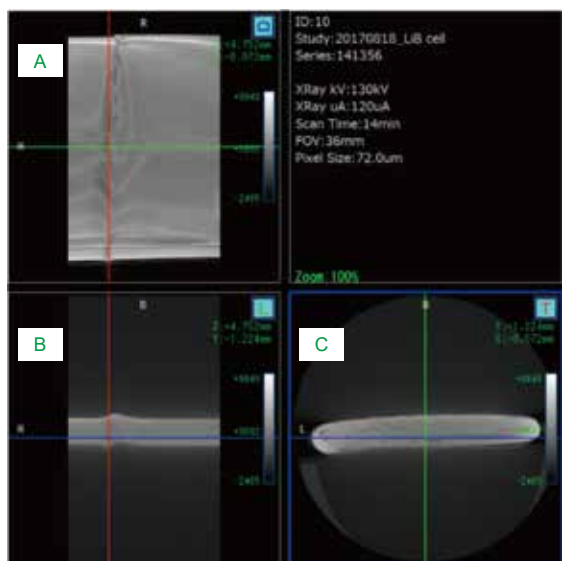
## 分析例 スマートフォン用リチウムイオン電池の観察

試料：使用済みリチウムイオン二次電池

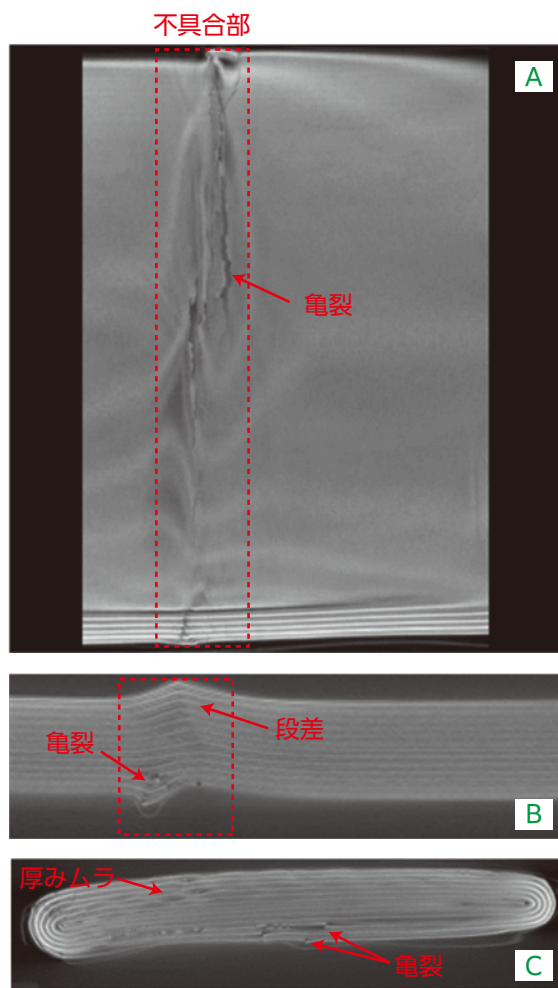
測定条件：ピクセル分解能：72μm/voxel  
観察範囲：36mm×20mm×4mm



試料外観



3軸断面図



断面図 拡大

- ・ X線CTにより電極の層状構造を確認
- ・ 観察方向 A：亀裂を含む不具合部はセルの横幅全域に存在
- ・ 観察方向 B：亀裂に加え、電極の段差も存在
- ・ 観察方向 C：電極間で厚みムラが存在

